

一般社団法人福岡県学校歯科医会 News Letter

FUKUOKA ASSOCIATION OF SCHOOL DENTISTS

Vol.6

2019年4月発行

CONTENTS

平成30年度統計調査報告	1
会員アンケート集計結果報告	2~3
マウスガード講習会	3
平成30年度 臨時総会	4
第96回日本学校歯科医会総会報告	4
「学校歯科医生涯研修制度」基礎研修	5
令和元年度事業計画・一般会計予算	6
表彰	7
事業報告、物故会員、公告、予告	8
編集後記	8

■ 平成30年度統計調査報告 ■

まず統計調査の経年的な総論であるが、う蝕は間違いなく減少傾向にあり、それに伴いカリエスフリーである者は概ね増加傾向にある。そして、それは今後も継続されていくことは容易に予想できる。これは学校歯科保健関係者の努力の賜物であり、学校歯科医、保護者の協力も不可欠であったはずである。しかし、各項目を注意深く分析すると、必ず一定数のう蝕多発者や未処置歯が溢れ返ったような子供達の存在も浮き彫りになってきた。今後はCやGを減らしてだけでなく、この子供間の格差をなくしていくことも大きな課題になるはずである。

統計調査において生じる問題点には、学校側のものと学校歯科医側のものとがある。

学校によるものとしては、提出に関しての問題である。単にうっかり忘れている場合もあれば、あえて提出しない場合もあるようである。前者に対して学校側への念押し、後者に対しては統計調査の意義とより正確さを追及するためにも、提出願う説明を学校歯科医に是非お願いしたい。また、少しずつ減ってきてはいるものの、せっかく提出された健診結果に集計の誤りが見受けられる場合もある。この点に関しても、学校歯科医による養護教諭等への念押しやチェックなどがあれば、より改善されるのではないと思われる。

学校歯科医による問題は、COやG・GOのカウントによるものが挙げられる。全校生徒がごく小数の小規模校では起こり得るかもしれないが、通常は考えられない事例、つまり各学年、あるいは全校生徒でCOがゼロであったり、G・GOがゼロというケースがたまに見受けられる。現場の先生方の労力や苦勞は想像に難くないが、統計調査のためだけでなく、学校歯科健診の意義そのものが問われかねないため、COやG・GOの検出にご協力をお願いしたい。

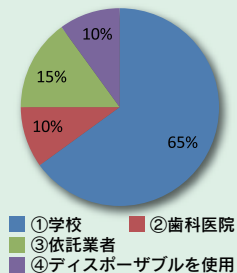


福岡県学校歯科医会会員アンケート調査報告

Q1

学校歯科健診の器具の滅菌、消毒はどのようにされていますか？

回答を頂いた方の65%が、学校で器具の滅菌や消毒を行なっているとなっております。また業者に委託されている学校もあるようです。多くの場合、学校側で器具が準備され、学校歯科医はそれを使って健診している事がわかります。一方、歯科医院で滅菌しているケースも10%ほど見受けられます。学校に滅菌設備が無い場合、器具を預かって滅菌したり、器具も歯科医院が準備している場合も見受けられます。児童生徒の数によっても対応が異なっている可能性も考えられます。何れにしても、学校歯科健診では人数分の清潔な器具が必要であり、設備の関係もあるが、滅菌した器具を準備する事が望ましいと思われれます。

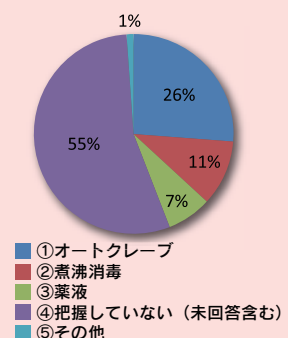


Q2

Q1で①、②と回答いただいた方で、学校歯科健診の器具の滅菌・消毒の方法について、どれか一つお選びください。

学校歯科健診の器具の滅菌・消毒の方法について55%が把握していないという事であったが、健康診断で使用する器具については、把握しておく事が望ましいのではないかと思います。

日本学校歯科医会発行の「学校歯科医の活動指針」を要約すると、「我が国は、感染力の強力な病原微生物が蔓延しており、器具の消毒は滅菌法を採用し人数分用意することが望ましい。」と記載されてあります。アンケートでは滅菌が27%、消毒が18%と滅菌が多く、社会の消毒に関する動向からも、今後滅菌が増えていくことが期待されます。また、その他の記載で市が関わり滅菌器具の提供が行われている学校がありました。市町村や近隣の学校と協力して、学校健診滅菌サービスなどを利用したセンター方式も広がって欲しいと思います。



Q3

学校歯科健診時の感染予防について、どれか一つお選びください。

(1) ミラーの使用方法

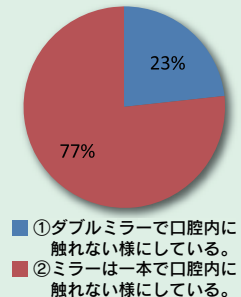
調査の結果、ダブルミラーで口腔内に手指が触れない様にしているが23%で、ミラーは一本で口腔内に手指が触れない様にしているが77%でした。

この結果から、ダブルミラーでの健診が比較的少ない事が判明しました。

近年の学校歯科健診の目的が、疾病発見と事後措置としての治療勧告から、児童生徒を健康の側から診ることにより病気になりそうな子を指導によって健康の側へ引き戻し、病気を未然に防ぐ、さらに問題のない子は健康の保持増進を図るよう教育指導するようになりました。このような考えから、CO、GOが導入されるようになりました。COは、主として視診にて明らかな窩は確認できないが、むし歯の初期病変の微侯（白濁、白斑、褐色斑）が認められ、その状態を経時的に注意深く観察する必要のある歯です。

GOは、歯肉に軽度の炎症が認められ、歯石の沈着が認められず定期的観察が必要で、適切な管理が施されれば治癒していく可能性がある状態です。CO、GOを正確に診査するには、十分な照明を確保する必要があり、ダブルミラーを用いることも有効ではないかと思われれます。

(1) ミラーの使用方法

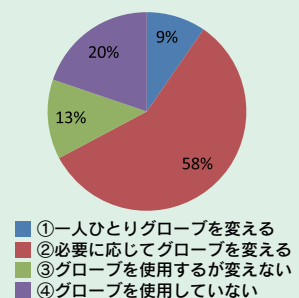


(2) グローブの使用方法

調査の結果、一人ひとりグローブを変えるが9%、必要に応じてグローブを変えるが58%、グローブを使用するが変えないが13%、グローブを使用しないが20%でした。この結果から、グローブを使用しない割合が意外に多い事が驚きでありました。一人ひとりグローブを変えるが、一番の理想ではありますが、協力医の有無、児童生徒の人数、学校の時間帯（給食の時間帯、下校の時間帯）など注意を払わなければならない事が多く、困難である事は理解できます。しかし、最近は児童生徒、保護者の感染予防に対する意識レベルが高く、健診時には、出来るだけ口腔内への手指の接触はひかえて、接触した場合はグローブを交換する配慮が必要だと思えます。

また、CO要相談の診断基準である隣接面や修復物下部の着色変色の視診には、出来るだけダブルミラーを使用するなど、直接の接触は避けて頂けたら、保護者側からのトラブルも未然に防げるのではないのでしょうか。

(2) グローブの使用方法



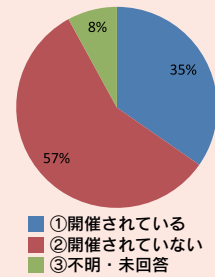
Q4

平成30年度 担当する学校での学校保健委員会の開催・参加状況について、
どれか一つお選びください。

過半数を超えて学校保健委員会が開催されていないとの結果は驚きですが、開催の有無を把握していない先生も少なからずいらっしゃるようです。開催率は県や、県下地域によっては100%近いところもあり、開催回数は全国的に1回程度が最も多いようです。

アンケートの結果、参加回数は1回、2回、0回の順に多く、中には5回という先生もいらっしゃいました。開催月は2月、7月、12月の順に多く、学期末に開催されることが多いものと推測されます。

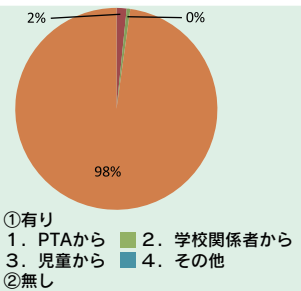
学校保健委員会の開催は学校保健活動の基本であり、学校歯科保健の重要性や、PTAに学校歯科医を知ってもらう絶好の場ともなり得ますので、開催されていない学校に関しましては、学校歯科健診後の校長との懇談の際にでも開催の提案を試みてはいかがでしょうか。



Q5

健診時のクレームの有無とその対応について

全体180件の回答を得、PTAから3件、学校関係者から1件のクレームがあり、176件からはクレーム無しとの内容となっています。98%からはクレーム無しとなっており、問題なく健診が行われていると考えられます。クレームの内容も、要望・質問に近く健診自体へのクレームはないようです。ただ、若干「自分の時はグローブを変えて欲しい」などの個別の要望があるようなので、それぞれの状況に応じた対応が必要となってくると思います。



この度は御忙しい中アンケート調査に御協力いただき、誠にありがとうございました。Q3の(1)ミラーの使用法で「口腔内に」の前に「手指が」という表現が不足していたことをお詫び申し上げます。

学校歯科健診における感染予防に対する児童・PTA・学校関係者の眼は、今後ますます厳しくなっていくものと思われます。

今回の結果を参考に今後の健診に活かしましょう。

歯・口の外傷及び マウスガード講習会

普及指導委員会 副委員長 菅 義浩

平成31年1月19日(土)午後3時より、福岡県歯科医師会館4階404研修室にて、学校歯科医会会員6名、非会員4名の計10名の参加により「歯・口の外傷及びマウスガード講習会」が開催されました。

近年、特に高校生以下の学生スポーツにおいて、マウスガードが義務化された競技が増えてきました。ラグビー、アメフト、空手、ボクシングなどハードなコンタクトスポーツでは必須のアイテムであることはもちろん、ひと昔前までマウスガードの有用性を軽視されていたサッカー、野球、バレーボール、バスケットボールなどの球技でも顎・顔面・口腔領域への外傷危険度の高いスポーツとしてマウスガードの装着を推奨されています。

学校歯科医として、スポーツ外傷における基礎的知識の習得はもちろん、競技指導者、保護者、そして何よりも子供達自身に、顎・顔面・口腔領域へのスポーツ外傷の予防法とその重要性を理解していただき、更なる学校における安全意識の向上に寄与する必要があると思われます。

平瀬専務理事による開会の挨拶の後、一之瀬理事より、学校における口腔外傷に関して講義が行われました。学校における危険予測学習は、それぞれの発達段階に応じた危機管理が必要であり、その中における学校歯科医の役割について詳しく解説されました。また、外傷発生時の現場で



の対応等、教員、指導者への的確な指示や早期の学校から歯科医院への連携の重要性に関して、受講者一同が真剣に聴講されているのが印象的でした。

続いて、外傷の発生状況、種目別の口腔外傷の頻度等、経年的な統計と現況を比較検討すると、マウスガードの普及が顎・顔面外傷件数の減少の一因になっているのでは、という見解を得ました。マウスガードの有用性、装着率の低い原因などマウスガードに関する概論の講義、実際のマウスガード製作方法の説明の後、模型実習となりました。

模型実習では、受講者が各自用意した上下顎石膏模型を用いて、トリミング、外形線の設定の後、バキュームフォーマーを用いてマウスガードを作製しました。質問をされる先生方も多く、新しい技術の習得に熱心に取り組まれていました。最後に杉原会長より、受講された先生方に受講証が手渡され、講習会が終了しました。

このようにマウスガード講習会を通して、マウスガードの製法、有効性等を理解して頂くと共に、学校歯科医として子供達のスポーツにおける顎・顔面外傷軽減の一助として、また、各地域における啓蒙活動がより活性化される事を、福岡県学校歯科医会として切に願っております。

1. 点 呼 代議員31名中31名出席
2. 開 会 副会長 三箇 正人
3. 会長挨拶 会 長 杉原 瑛治
4. 物故会員の弔慰
5. 平成30年度表彰
 - (1) 会長表彰
 - (2) 会員表彰
 - (3) 特別表彰
 - (4) 功労者表彰
 - (5) 団体表彰
 - (6) 褒賞状授与
6. 議事録署名人の指名

議 長 原 野 啓 二 (遠賀中間)

東 地 区 田 中 敏 治 (飯 塚)

北 地 区 今 村 均 (八 幡)
7. 報 告
 - (1) 会 務 報 告 専務理事 平瀬 久義
 - (2) 会計現況報告 理 事 松田 宏一
 - (3) 監 査 報 告 監 事 吉川 容
8. 決議事項

第1号議案 2019年度事業計画について 可決

- 第2号議案 2019年度一般会計予算について 可決
- 第3号議案 2019年度基本財産積立金特別会計予算について 可決
- 第4号議案 2019年度職員退職積立金特別会計予算について 可決
- 第5号議案 2019年度福岡県学校歯科医会会費・賦課徴収及び日本学校歯科医会会費賦課徴収について 可決
- 第6号議案 第31期会長予備選挙 可決
9. 協 議
10. 閉 会 副会長 須ノ内 茂 子



一般社団法人 日本学校歯科医会 第96回臨時総会 開催

副会長 須ノ内 茂子

平成31年3月27日(水)午後1時30分より日本歯科医師会館大ホールにて第96回臨時総会が開催された。当会からは杉原会長を始め、平瀬専務理事、柳迫常務理事と須ノ内、また日本学校歯科医会構成役員として、三箇副会長、一之瀬理事が出席した。

総会に先立ち、平成30年度 日本学校歯科医会会長表彰被表彰者(学校歯科医歴35年以上、日学歯会員歴20年以上)300名の内、全国より出席された40名の方々は、御祝いの昼食会後、記念撮影が正面玄関内ホール中央にて行われた。福岡県からは14名の内4名、中尾利夫、平瀬久義、松野繁樹、柳迫正俊先生が出席された。会長表彰では、1名ずつお名前が披露され、表彰状と記念品を鹿児島県 野添良隆先生が代表で授与され御礼の言葉を述べられた。その後臨時総会が開会された。

臨時総会では、川本日学歯会長の挨拶に続き、来賓挨拶が文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課 学校保健対策専門官 小林 沙織、日歯会長 堀 憲郎、日歯連盟理事長 久保田 智也より行われた。

報告事項として、

1) 特別委員会報告として、議事運営特別委員会に続き、予算決算特別委員会から報告があり、委員長より「今後、公益社団法人化を目指すにあたり、適正な組織運営と公平性のある運営、社会的使命を広く重く受け止めて、定款変更を行っていただくよう強く希望する」との見解が述べられた。

2) 選挙管理委員会からは会長予備選挙について川本強候補者が次期会長候補当選者に決まったことが報告された。

3) 中間監事報告まで各種報告がなされた。

議事に入り、第1号議案 定款一部改正 ※役員の設置第2条 この法人に次の役員を置く 現行 理事22名以内改定20名以内については満場一致で可決。

第2号議案 役員報酬規則の改定(改定後名称「役員報酬

検討特別委員会規則」)

第3号議案 役員報酬規程の改定(改定後名称「役員報酬及び費用に関する規則」) ※役員(理事及び監事)報酬が一律20,000円アップ、退職規程は現行にないが、改定5,000円×在職月数、賞与については現行通りとする。2019年7月1日より施行する。この件については議場の代表会員より議案の呈示の仕方について、異議が出たが、代表会員124名中3分の2にあたる83名以上の賛成で可決とした。

第4号議案 平成31年度事業計画 基本的な考え方が次の様に説明された。

1. 生涯研修制度の推進 2. 学校歯科医への活動支援
3. 国民から信頼される学校歯科医像の普及と広報活動の充実。4. 一般社団法人から公益社団法人への移行
5. 大会への積極的な参画等による学校歯科保健活動の充実。

なお、会務遂行にあたっては、学校歯科保健活動の充実のために、日本学校保健会、日本歯科医師会などの関係団体と更なる連携や協働を図る。

第5号議案 平成31年収支予算までが承認され、午後5時過ぎに閉会となった。





平成30年度日本学校歯科医会、福岡県学校歯科医会主催の「学校歯科医生涯研修制度」基礎研修（併催 新任研修会）が、平成31年2月9日（土）14:50～18:00の日程で、県歯科医師会館5階視聴覚教室において、65名の参加者を得て開催された。

平瀬久義専務理事による司会進行の下、開会の挨拶で杉原瑛治会長は「今回の研修会が文科省・日本学校保健会・日本学校歯科医会が一体となったものであり、会費だけの問題で退会する先生には、今回のような細かな改正点などの新しい情報や知識の伝達ができなくなる」と担当校への不利益を危惧された。

引き続き会長による研修1「学校歯科保健の概念を把握する」では、学校教育の目的と理念、学校保健の中の学校歯科保健の位置付け、役割、学校歯科保健計画、学校保健委員会、地域学校保健委員会について理解を深め、学校歯科保健活動の活動領域における「事後の活動」の重要性を強調された。

研修2は、県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課保健給食係指導主事の薄井純一講師が「学校歯科保健における保健教育を理解する」と題し、保健教育の領域と構造、子供の発達段階に即した学校歯科保健教育のねらいや内容、学校における歯科保健教育の内容、健康診断の事後措置としての歯科保健教育などについて解説。その中で平成29年の学習指導要領改正による「保健教育」の用語の変更、学校歯科保健教育の事例や資料等が紹介された。「子供達は校医などのプロフェッショナルの方の話に耳を傾けるので、価値付けをしてもらうことが重要」とアピール。さらに学校での学びを家庭の取り組みとリンクするために、保健だよりなどの有用性について述べられた。

続く研修3「学校歯科保健における保健管理を理解する」は、楠本俊司理事が担当し、定期健康診断の意義、就学時健康診断および臨時健康診断の意義、歯・口腔の健康診断、保健調査の意義、健康診断の基準などについて解説。改定に伴うCO（要相談）やう蝕多発傾向者の判定基準、喪失歯△の補助記号▲（福岡県方式）、学校歯科医所見欄の漏れを防ぐための記録者との打ち合わせなどを確認した。さらに平瀬専務理事よりローカルルールとして矯正治療中の子供に対しては、歯列・咬合は1に○をつけ所見欄に「矯正治療中」と記載するよう付け加えられた。

最後に研修4「学校歯科保健における組織活動を理解する」を白木博繁理事が務め、教職員の組織・協力体制および校内研修の重要性、家庭およびPTAとの連携のあり方、地域の関係機関・団体との連携および学校間の連携のあり方、学校歯科医とかかりつけ歯科医との連携のあり方、学校歯科保健委員会・地域学校歯科保健委員会について学んだ。実際に講師自身が20年前に1年かけて取り組み実施した「フッ化物塗布」、7年前に実施した「あいいうべ体操」、「染色液を使ったブラッシング指導」等を説明し、「何かアクションを起こし、お互い信頼関係が持てるようになれば色々なことがスムーズに実行できるようになる。子供達の笑顔のために皆さんのご活躍を期待します」と述べられた。

研修後に、学校管理下における根末完成歯の歯根破折の共済給付期間と健診結果の提出校を増やす策について質問があり、平瀬専務理事が回答。最後に岡村博久学術委員長の閉会の辞の後、研修修了証が地区ごとに配布され散会となった。

TOPICS

福岡県学校歯科医会から被災小学校へプレゼント

西日本新聞 3月1日（金）23面に掲載されました。

昨年7月の西日本豪雨の被害で筑前町の中牟田小学校近くのため池が決壊して小学校に水が押し寄せ、校舎などが浸水しました。その結果、校内で一時的に孤立した児童は無事でしたが、施設の床や運動場が被害を受け、改修を余儀なくされました。

この度、杉原瑛治会長が本会からの支援金20万円を平成31年2月28日に同小学校、荒木校長へ贈りました。



令和元年度 福岡県学校歯科医会 事業計画

1. 事業

- (1) 学校歯科保健に関する調査研究
 - 1) 歯科健康診断統計調査の推進・活用
 - 2) 私立学校における歯科保健活動の調査研究
- (2) 学校歯科保健に関する普及啓発
 - 1) 生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業
 - 2) よい歯の学校表彰
 - 3) 全日本学校歯科保健優良校表彰応募校の審査・推薦
 - 4) 歯・口の健康に関する図画・ポスターの募集（審査・表彰）
 - 5) 歯・口の健康啓発標語の募集（審査・表彰）
 - 6) 加盟団体の学校歯科保健事業へ協力
 - 7) 歯科健康診断方法の普及・指導
- (3) 学校歯科保健に関する研修会、研究発表等の開催
 - 1) 第24回福岡県学校歯科保健研究大会の開催
 - 2) 歯・口の健康づくり推進協議会の開催
 - 3) 福岡県学校歯科医研修会の開催
 - 4) 新任研修・基礎研修及び更新研修の開催
 - 5) スポーツ歯学に関する研修（マウスガード等）
 - 6) その他必要な研修事業
- (4) 学校歯科保健関係者に対する指導助言
 - 1) 「学童期むし歯予防推進事業」への協力
 - 2) 学校歯科保健関係者への指導・助言・協力
 - 3) 実務担当者会議の開催
 - 4) 加盟団体への時局講演
- (5) 学校歯科医に関する調査
- (6) 学校歯科保健行政に対する協力
 - 1) 学校歯科保健教育に関して行政へ協力
- (7) 機関紙及び刊行物の発行
 - 1) 会報・特集号（図画・ポスター・標語）の作成
 - 2) ニュースレターの発行
 - 3) 広報活動の推進
- (8) 本会に顕著な業績のあった者及び団体を推挙又は表彰
- (9) その他目的を達成するために必要な事業
 - 1) 令和元年度全国学校保健・安全研究大会への参加研修（埼玉県さいたま市）

- 2) 第69回全国学校歯科医協議会への参加研修（埼玉県さいたま市）
- 3) 第83回全国学校歯科保健研究大会への参加研修（山口県山口市）
- 4) 令和元年度九州地区学校歯科医会役員連絡協議会への参加研修（大分県大分市）
- 5) 第18回九州地区健康教育研究大会への参加研修（大分県）

2. 助成関係

- (1) 加盟団体関係事業への助成

3. 福岡県学校歯科医会運営の充実

- (1) 日本学校歯科医会・福岡県学校保健会・福岡県歯科医師会、その他関係諸団体との連携
- (2) 加盟団体との連携
- (3) 制度並びに組織機構の整備と充実（内規を含めた規則の見直し）
- (4) その他本会目的達成のための事業

4. 常任委員会活動

★学術委員会

- (1) 福岡県学校歯科保健研究大会の企画、運営
- (2) 福岡県学校歯科医研修会の企画、運営（新任研修、基礎研修、更新研修）
- (3) 学校歯科保健活動のための資料収集、作成

★普及指導委員会

- (1) 学校歯科保健事業に関する普及指導
- (2) 加盟団体の指導啓発事業への協力
- (3) スポーツ歯学（マウスガード等）についての研修会の開催
- (4) 「学童期むし歯予防推進事業」への協力
- (5) 学校歯科健康診断 I T 化の促進

★統計調査委員会

- (1) 歯科健康診断統計調査報告書の作成
- (2) 健康診断結果の分析と対策
- (3) よい歯の学校表彰推薦校の選出

★広報委員会

- (1) 県学歯会報の発行
- (2) ニュースレターの発行
- (3) 図画・ポスター・標語特集号の発行
- (4) ホームページの作成
- (5) 対外的広報活動の実施
 - ① 県学歯事業に関すること
 - ② 加盟団体、各種大会に関すること
 - ③ 関係諸団体、各種大会に関すること
- (6) 周年事業の為の資料収集・整理

令和元年度 一般会計予算

収入予算額
32,063,000 円
支出予算額
32,063,000 円
差 引 額
0 円

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
事業活動収入計	32,063,000	33,561,000	△1,498,000
2. 事業活動支出			
会議費	4,120,000	5,740,000	△1,620,000
事業費支出	10,400,000	11,370,000	△970,000
事務費支出	14,800,000	13,580,000	1,220,000
事務所費	2,200,000	2,200,000	
負担金	200,000	200,000	
他会計への繰入金支出	279,000	356,000	
事業活動支出計	31,999,000	33,446,000	△1,447,000
事業活動収支差額	64,000	115,000	△51,000
II. 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入	0	0	0
2. 投資活動支出	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III. 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入	0	0	0
2. 財務活動支出	0	0	0
財務活動収支差額		0	0
IV. 予備費支出	64,000	115,000	△51,000
当期収支差額	0	0	0
前期繰越収支差額	0	0	0
次期繰越収支差額	0	0	0

平成
30年度

表彰おめでとうございます

福岡県教育文化表彰

日時：平成31年3月16日（土）

場所：福岡リーセントホテル



柳迫 正俊
(八女筑後)



松藤 幸治
(大川三瀬)



久保 哲郎
(小倉)

一般社団法人 日本学校歯科医会会長表彰

期日：平成31年3月27日（水） 場所：日本歯科医師会館 1階大ホール



川部 和三
(京都)



白水 彰
(飯塚)



原 博英
(飯塚)



松野 繁樹
(直方)



奥住 明夫
(筑紫)



仲吉 信彦
(筑紫)



平瀬 久義
(筑紫)



中尾 利夫
(朝倉)



森川 康伸
(久留米)



柳迫 正俊
(八女筑後)



中川 龍比湖
(柳川山門)



永江 健一
(大牟田)



中村 孝志
(門司)



中村 武利
(遠賀中間)

一般社団法人 福岡県学校歯科医会表彰者名簿

日時：平成31年3月16日（土） 場所：福岡県歯科医師会館 5階 大ホール



会長表彰
(27名)

田 淵 浩 (京都)	古 賀 寛 一 (直方)	中 國 陽 一 (直方)	野 田 大 三 (直方)
福 田 潔 (直方)	沖 博 文 (飯塚)	永 末 尚 敏 (飯塚)	野 田 孝 則 (宗像)
吉 川 友 國 (粕屋)	榎 坂 祐 一 (筑紫)	根 木 一 (筑紫)	近 藤 元 司 (八女筑後)
永 田 和 彦 (八女筑後)	松 本 陽 一 (柳川山門)	古 澤 一 彦 (柳川山門)	古 賀 哲 男 (柳川山門)
平 河 孝 憲 (柳川山門)	吉 田 龍 生 (柳川山門)	浅 尾 博 己 (小倉)	橋 本 敏 昭 (小倉)
上 村 耕 基 (八幡)	加 来 弘 志 (八幡)	東 川 和 生 (八幡)	和 田 正 之 (八幡)
田 中 裕 治 (遠賀中間)	日 高 里 史 (遠賀中間)	三 阪 賢 二 (遠賀中間)	



会員表彰
(20名)

南 益 祐 (田川)	黒 石 崇 之 (田川)
佐 野 顕 治 (飯塚)	樋 口 琢 善 (飯塚)
高 山 哲 志 (宗像)	出 光 正 裕 (宗像)
金 縄 隆 嗣 (筑紫)	萩 原 俊 史 (筑紫)
中 垣 裕 明 (久留米)	雨 野 晃 三 (八女筑後)
内 山 秀 樹 (八女筑後)	大 淵 庸 晴 (八女筑後)
横 山 大 樹 (八女筑後)	田 中 勝 昭 (大川三瀬)
辻 政 秀 (大牟田)	甲 斐 康 晴 (八幡)
瀧 口 知 靖 (八幡)	波 多 江 喜 伸 (八幡)
前 原 弘 樹 (遠賀中間)	松 本 磨 三 生 (遠賀中間)



褒賞状

叙 勲 杉 原 瑛 治
文部科学大臣表彰 草 野 鴻 志



団体表彰

京都歯科医師会



物 故 会 員

自 平成31年1月1日 至 平成31年4月20日

ご冥福をお祈り致します

守 田 邦 昭 71才 (遠賀中間)
宮 原 邦 彦 85才 (久留米)

公 告

令和元年度 定時総会 (第110回)

日時 令和元年 6月15日 (土)
15:00~
場所 福岡県歯科医師会館
5階 大ホール

予 告

第4回 西日本子ども歯科保健・健康会議

主 題 「う蝕多発児からみえるもの」

～その問題と対策～

趣 旨 歯科疾患実態調査では小児のう蝕は減少傾向にあり、う蝕予防に対する関心が希薄になっていると思われます。口腔内の清掃状況は、生活態度の鏡であるといえますが、近年、子供達の口腔内状況が二極化していることが歯科関係者で問題視されています。これは子供達にとって重大な警告であると思われます。実際に、小児歯科診療所では連日のように、う蝕を多発させた小児が受診しています。この背景には、経済格差、教育格差などに由来する家庭環境、生活環境や小児虐待等の問題が隠されています。

第4回西日本子ども歯科保健・健康会議では、この小児のう蝕多発者に焦点をあて、専門家のご意見をお聞きしたいと思います。この会議で、子供達の健康を指導するためのヒントになればと思っています。皆さん是非ご参加のほどお願いいたします。

日 時 令和元年 7月13日(土) 14:00~17:00
場 所 福岡県歯科医師会館 5階 中ホール
主 催 西日本子ども歯科保健・健康会議
会 費 年会費 1,000円
(当日徴収※欠席の方は振込にて徴収)
新規会員 入会金1,000円 年会費1,000円
当日のみ参加 1,000円

事業報告

歯・口の外傷及びマウスガード講習会

日 時 平成31年1月29日(土) 15:00~17:00
場 所 福岡県歯科医師会館 4階 404研修室
出 席 者 会員6名 会員外4名

「学校歯科医生涯研修制度」基礎研修 併催 福岡県学校歯科医新任研修会

日 時 平成31年2月9日(土) 14:50~18:00
会 場 福岡県歯科医師会館 5階 視聴覚教室
受 講 者 65名

研修内容

研修1 「学校歯科保健の概念を把握する」
福岡県学校歯科医会 会 長 杉原 瑛治
研修2 「学校歯科保健における保健教育を理解する」
福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課
指導主事 薄井 純一
研修3 「学校歯科保健における保健管理を理解する」
福岡県学校歯科医会 理 事 楠本 俊司
研修4 「学校歯科保健における組織活動を理解する」
福岡県学校歯科医会 理 事 白木 博繁



第30期杉原会長のもと発行を始めました「ニュースレター」も、今期最後のNo.6を発行する運びとなりました。今回、特集記事で取り上げさせていただきました「会員アンケート調査」につきましては多くの皆様にご協力いただき感謝しております。また、貴重なご意見もいただき、今後の活動に活かして行きたいと考えております。

広報委員会では、「ニュースレター」を発行するにあたり、当初は試行錯誤の連続で、いくつかの原稿につきましては掲載できなかったこともあります。しかしながら、三箇副会長の指導のもと少しずつ「ニュースレター」の在るべき形が見えてきたように感じています。

来期からも「ニュースレター」は発行させていただく予定となっております。より良いものをお届け出来ますよう精進していきたいと思っております。

最後に、未熟な担当理事の元、我慢強く頑張っていただいた広報委員の先生方に感謝いたします。

広報委員会 担当理事 白木 博繁

News Letter Vol.6

毎年3回発行

発行人 杉原 瑛治

発行所 〒810-0041

福岡市中央区大名1丁目12-43

福岡県学校歯科医会内

TEL 092-714-4627 FAX 092-714-7599

E-mail k-gakusi@alpha.ocn.ne.jp

U R L http://www.fk-gakusi.jp

印刷所 〒812-0065

福岡市東区二又瀬新町12-29

(株)大里印刷センター

TEL 092-611-3118 FAX 092-629-2715